今、松本で観て、考える。その意義とは？

映画『蟻の兵隊』は、元日本兵・奥村和一がかつての戦地・中国を再訪し、
国家によって歴史の影に追いやられてきた戦争責任を問い直す記録である。

彼の旅は、単なる事実の検証ではない。
加害者としての過去。自らの中に残る「日本兵」としての自分。
奥村は、自身の戦争に落とし前をつけるべく、山西省の地へと足を踏み入れる。

「戦争」とは過去のものだろうか。
風化しつつある記憶と現代の無関心の空白に本作は切り込んでいく。

かつて全国最多の満蒙開拓団を送り出した地、長野。
松本市が軍都としても機能し、民間人が戦争の一翼を担った
「加害の構造」としての歴史を、現代を生きる私たちは感じているだろうか。

戦争は、被害者にも加害者にも深い爪痕を残した。
語り継ぐ声が消えていく中で、背後にあった「戦争の構造」を見失えば、歴史は繰り返される。

平和の隣に、戦争の構造がむき出しのいまの世界で、
私たちはどのようにこの時代を生きるのか。
この地だからこそ向き合える問いが、ここにある。

＼学生有志が主催／

パネルディスカッション「戦争って本当にあったんだ…」

池谷薫監督・丸山貢一元信毎論説主幹に加え、
高校・大学生といった若者たちがパネラーとなって
映画『蟻の兵隊』、そして戦争について
戦後80年と言われる現在とそこを生きる自分自身について、
会場の参加者も交えて語り合う。

▲イベント情報
Instagram

戦争って本当にあったんだ…

——いま、映画

『蟻（アリ）の兵隊』を観る——

7.26.Sat 信毎メディアガーデン 1F ホール

第1回上映 11：00～12：41
第2回上映 14：00～15：41
パネルディスカッション 16：00～17：30（参加自由・無料）

チケット
一般：1500円
学生：500円
※学生…中高浪大専の生徒・学生

申込
△Webショップ
信毎メディアガーデン
1階受付
（9:00～18:30）

主催：2025『蟻の兵隊』実行委員会　協力：信濃毎日新聞社　後援：松本市・松本市教育委員会（申請中）　TEL：0263-33-8404